

## 【島根県海岸保全気候変動検討委員会 第2回】議事要旨

日 時 : 令和6年2月7日(水) 14:00~16:00

場 所 : サンラポーむらくも 彩雲の間

出席者 : 河原委員長、森委員、黒岩委員、吉松委員、藤原委員

- 議 事 :
- (1) 本委員会での検討事項とスケジュール
  - (2) 第1回委員会意見への対応
  - (3) 気候変動を踏まえた計画外力の検討方針の概要
  - (4) 気候変動を踏まえた潮位の検討方針
  - (5) 気候変動を踏まえた潮位偏差の検討方針
  - (6) 気候変動を踏まえた波浪の検討方針
  - (7) 計画外力検討方針のまとめ

### ■主な意見等

- Bruun 則を用いて試算した汀線後退量は、既往論文の結果と比較検証すること。(説明資料 p.15)
- 図3「各時期における合計値」について、朔望平均満潮位、潮位偏差、計画波浪の数値と算出根拠を記載すること。(説明資料 p.16)
- 朔望平均満潮位の算出期間(夏季・冬季や通年)の設定については、気候変動の影響を加味して検討すること。(説明資料 p.16)
- 島根沿岸の地盤高の変化について、その理由を専門家に確認すること。(説明資料 pp.18~19)
- 海面上昇量について、IPCC 第6次評価報告書の全球平均ではなく、日本周辺の値を使用した方がよい。(説明資料 pp.27~29)
- 想定台風の台風経路は、高潮推算の結果をみたうえで、問題ないか確認すること。(説明資料 p.37)
- d4PDF のバイアス補正を6次式でしているが、高次の補正式は、補正式作成に用いた中心気圧データの範囲外で誤差が大きくなる可能性がある。この点について、留意すること。(説明資料 p.39)
- 想定台風の設定結果の一覧表には、結論として、設定した具体的な数値等を記載すること。(説明資料 p.47)
- 台風経路や中心気圧の確率評価について、d4PDF を用いて対馬海峡を通過する台風個数や中心気圧を基にした極値統計解析を行う方法もある。(説明資料 pp.51~52)
- 台風モデルのパラメータ C1、C2 について、標準的な範囲を示すこと。(説明資料 pp.56~58)
- 国土交通省港湾局で、別途、潮位偏差や波高の将来変化比を検討している。この将来変化比と本委員会での検討結果との整合性を確認しておいた方がよい
- 変化率(台風)の算出では、1991年台風19号を基にした想定台風だけでなく、2004年台風15号を基にした想定台風も追加した方がよい。(説明資料 pp.85~87)
- 計画外力の検討方針のまとめに、海面上昇量はIPCC 第6次評価報告書の日本周辺の値を参考に設定する旨、波浪では1991年台風19号と2004年台風15号から変化率を算出する旨、冬季波浪に関する将来の変化傾向、地盤変動について別途検討する旨を追記すること。(説明資料 p.89)